

# 藤並の森

Vol.24

高知県立  
文学館



●「山里の春（高岡郡越知町）」（写真提供／杉野節子）

## リレー随筆② 岡本彌太の「海」——山川 久三

「みちは／はるかかの海の上／あるか  
れず／乏しい潮の光のこちらにけふも  
暮れてゐる」——たまに帰高して、桂浜  
の龍王岬の巖頭に立つと、詩集『瀧』  
に収められたこの詩を思い出します。  
彌太の短詩では「白牡丹凶」が有名で  
すが、この「みち」もいいと思います。  
す。わずか四行一連に、彌太の生涯の  
エッセンスが詰まっています。

晴れた秋の日など、龍王岬から眺め  
る太平洋は、ガラスの碎片千個を植え  
たよう。水平線に向かって茫茫、光の  
果てもありません。絶望も希望も呑み  
込んだ海の総体が、ゆったり横たわ  
り、反射光の無数をすどく投げてよ  
こします。海のほとりに生まれ、海と  
日常を接するように生を刻んだ詩人  
が、海原に「みち」を想定したとして  
も、ふしぎではありません。

彌太は香美郡・岸本に生まれ、夜須・  
赤岡・前浜・府内の各小学校に勤めま  
したが、府内をのぞいては海に近い職  
場でした。土佐湾という名の太平洋  
は、彌太の脳裏にあった原風景に違  
いなく、大洋の律動と狂瀾は、彌太の詩  
の生をつらぬくりズムだったように思  
われてなりません。

道は、たしかに海にあり、しかもこ  
ちらがわの生は、きのうも今日も、あ  
まりに貧しく明け暮れてゆく。平凡と  
不如意のきわみ、かなわぬことと知り  
ながら、燦爛と延びる海の道を、詩人  
は思わずにいられない。脱け出すこと  
もできない泥沼の現実で、詩人の想像  
力は、存在しない詩の根拠へ、つばさ

をひろげてゆく。

そういう「詩」と「現実」の矛盾  
を、彌太は「黒潮」三部作で止揚しよ  
うとして、彌太なりの仕方でも成功した  
ように思います。舞台は、南の国から  
北の国にまたがる、どこも知れぬ黒  
潮海流の陸域。タキ少年は、口寄せを  
生業とする盲目の母と共に、民俗の体  
臭濃い地図で成長してゆく。「いざり」  
車に乗った垢だらけの男、ハエのたか  
る包帯をした若い「癩者」夫婦、キツ  
ネ寄せの婆、月琴を鳴らす旅の法界屋  
——むせかえるような民俗幻想の世界に  
も、作品の書かれた時点での「時」の  
影は容赦なく差していて、銃丸のあ  
いた青年の屍も流れている。「明」も  
「暗」も「聖」も「俗」も、すべてを  
吞吐して、黒潮は悠久の歌を歌いなが  
ら環流を続けてゆく。民族と民俗のス  
パイスを効かせた時空間に展開され  
る、これは彌太の、フィクションと想  
像力による自伝詩のおもむきがありま  
す。そういうえば、彌太の墓も海のほと  
りにある。

彌太が亡くなって六十二年。彌太顕  
彰の事業は、高知でも息長く続けられ  
ていて、「白牡丹祭」と名称の改められ  
た「彌太をしのぶ会」も、今年三回  
目。片岡文雄さんたちが選者になって  
の文芸作品募集も、例年通りおこなわ  
れるようです。東京でも、彌太の名前  
を聞くことが、だんだん増えてきてい  
ます。

（詩人）

## ◆次回企画展紹介◆

2004年7月3日(土)～9月5日(日)

## マザー・グースの世界展(仮)

マザー・グースとは、イギリス、アメリカの伝承童謡です。イギリスでは *Nursery Rhymes* と呼ばれることが多いようですが、日本では、マザー・グースという呼び方が親しまれています。世界中のどこにでもわらべ唄があるように、このマザー・グースも、古くから歌い継がれてきたものです。口承で伝わってきたもので、作者や成立年などははっきりしません。必ずしもメロデーがあるものばかりでなく、早口言葉や格言など、多くが言葉遊びの要素を持つものでした。

日本のわらべ唄も、かつてはゆたかな世界を持っていたことは疑いありませんが、残念なことに、現代ではほとんど消えかけてしまっています。対照的に、マザー・グースは、小説や映画に登場したり、新聞の見出しに使われるなど、今も英語圏の文化に深く根ざしています。千から二千ほどの数が存在しているといわ

れ、「ロンドン橋」や「キラキラ星」など、日本でもよく知られているものはいくつにすぎません。

日本ではじめて本格的に紹介されたのは、北原白秋の「まざあぐうす」です。近年では谷川俊太郎の訳で知られるようになりまし

た。

言葉遊びから生まれてきたマザー・グースのイメージは、ときにナンセンスで、ユーモラスです。日本語で聞くとわけがわからず、混乱してしまうこともありますが、意味ではなく、言葉のリズムや響きと、そこから生まれたおかしなイメージを楽しむのがマザー・グースといえるでしょう。美しかったり、おかしかったり、不気味だったり、残酷だったり、楽しかったりと、様々なイメージがそこにはあります。

北原白秋や、谷川俊太郎など、マザー・グースの翻訳に挑戦したのは、すぐれた言語感覚を持つ詩人たちです。意味を日本語に置き換えただけでは、マザー・グースの魅力は半減してしまいます。白秋も、「創作以上の苦しみをなめた」といっているほど翻訳には苦労しましたが、雑誌に発表してからも何度か手を入れるなど、愛情をこめてこの仕事に取り組みました。

マザー・グースの魅力は、日本語訳を黙読するだけでは味わいき

れません。イメージを楽しむことは充分にできますし、翻訳者たちの手腕によって、日本語としてのリズムも与えられています。けれども、マザー・グースはもともと「文字」ではなく「声」で伝えられて来たものです。昔話やわらべ唄など、口承のものには、声を出して語られ、耳で聞くのに最もふさわしいかたちが自然に与えられています。ですから、マザー・グースも、原語を声に出したり、耳で聞くことで、より楽しみが深まるものといえるでしょう。

イギリス、アメリカの子どもたちは、幼い頃よりマザー・グースを聞いて育っています。「猫が弾く」といえば「バイオリン」で、「月を飛び越える」のが「雌

牛」というのは、日本の子どもたちにはピンとこないかもしれませんが、英米の子どもたちにとってはすぐに連想できるものです。それは、次のマザー・グースがよく知られているためです。

Hey diddle diddle, The Cat and the Fiddle,

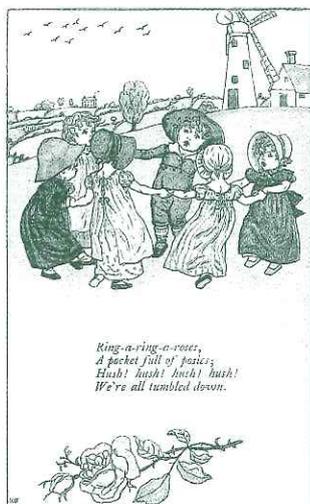
The Cow jumped over the Moon;  
The little Dog laughed to see  
such fun,  
And the Dish ran away with  
the Spoon.

the Spoon.

えっさかほいさ／ねこにバイオリン／めうしがつきを とびこえた／こいぬはそれみておわらい／そこでさらはスプーンといっしょにおさらばさ

(訳・谷川俊太郎)

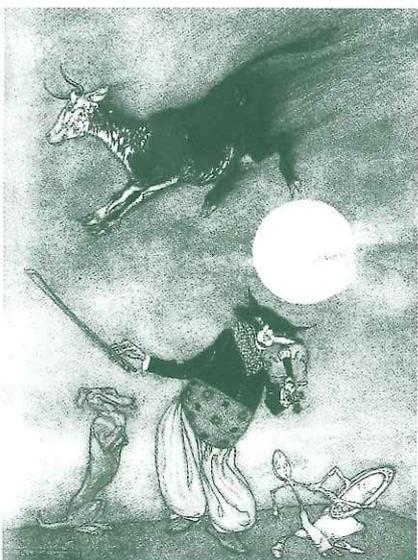
日本語には現れませんが、英語では韻を踏んでおり、それがこの突拍子もない組み合わせを生み出しているのです。



Ring-a-ring-a-rosy,  
A pocket full of posies;  
Hush! hush! don't bust!  
We're all tumbled down.

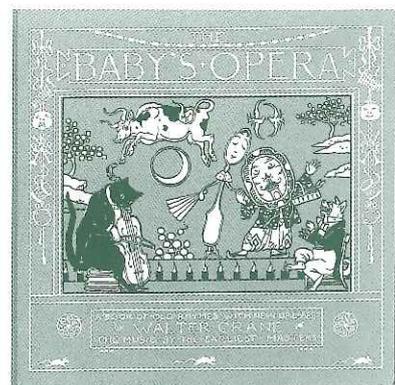


「マザー・グース」(ケイト・グリーナウェイ)より



「マザー・グース」(なつかしい伝承童謡)

(アーサー・ラッカム)より



『幼な子のオペラ』(ウォルター・クレイン)

◆ミニ企画紹介◆

2004年4月10日(土)～5月30日(日)

岡田憲佳写真展「金子みすゞ 思い花」



写真提供：金子みすゞ著作保存会

金子みすゞは、明治36年(1903)、山口県長門市の仙崎にうまれました。本名は金子テル。賢く、心やさしい少女だったというみすゞは、友達や先生からも愛されて育ちました。

この遺稿集が、関係者の熱意と努力により、ついに全集として出版されたのは昭和59年。以降、甦ったみすゞの作品は次第に広がっていき、やがて大きな反響をまきおこします。

「名は芝草といふけれど、その名をよんだことはない。／／それはほんんとつまらない、／／みじかいくせに、そこら中、／／みちの上まではみ出して、／／力いっばいりさんでも、／／とても抜けない、つよい草。／／げんげは紅い花が咲く、／／すみれは葉までやさしい

女学校卒業後、みすゞは雑誌「童話」を中心に作品を投稿するようになります。みすゞの童話は認められ、次々に雑誌に掲載されます。西條八十には「若き童謡詩人中の巨星」とまで評されるようになります。しかしながら、23歳のときに結婚したのちは、夫の女性問題や、体の不調に苦しめられるようになります。そして、昭和5年、26歳という若さで世を去りました。生前、一冊

の童謡集も出しえなかった金子みすゞは、それから長い間、文学史から忘れ去られてしまった幻の童謡詩人とされてきました。

今回の写真展では、みすゞが見つめた草花を、みすゞの童謡とともに紹介します。

よ。／／かんざし草はかんざしに、／／京びななんか笛になる。／／けれどももしか原つばが、／／そんな草たちばかりなら、／／あそびつかれたわたし等は、／／どこへ腰かけ、どこへ寝よう。／／青い、丈夫な、やはらかな、／／たのしいねどこよ、芝草よ」  
「芝草」(金子みすゞ全集) JULA出版局



れんげ

マザー・グース特有のこういった不思議なイメージは、画家たちの想像力をかきたてました。19世紀後半、イギリスでは、ウォルター・クレイン、ランドルフ・コルデコット、ケイト・グリーナウエイという、ヴィクトリア朝を代表する三人の画家たちが、それまでになかった美しい絵本を次々と世に送り出します。これらは高い芸術性を持ち、子どもだけでなく、大人の鑑賞にも充分耐えうるものでした。かれらも好んでマザー・グースを

題材にしています。ウォルター・クレインの『幼な子のオペラ』『幼な子の花束』、コルデコットの『ジャックが建てた家』、ヘイ、デイドル、デイドル、ケイト・グリーナウエイの『マザーグース』4月の子どもたちの歌』など、この時期、代表的なマザー・グース絵本が生まれています。

その後も、マザー・グースは、絵本の題材としてあらゆる画家に描かれまし。20世紀に入り、印刷技術の発達とともに、絵本の大衆化がすすむと、アメリカにおいて多くのマザー・グース絵本が出版されるようになりました。

この展覧会では、19世紀後半のイギリスのマザー・グース絵本から、20世紀のアメリカのマザー・グース絵本までをご紹介します。

記念講演  
7月24日(土)  
講師：島 多代氏  
(東京子ども図書館評議員、  
国際児童図書評議会会長、  
ミユゼ・イマジネール主宰)

に来ていただければ幸いです。(野中佐知子)

## 学芸員メモ

## 「良寛展—詩と書とその生涯」より

「どうして高知で良寛なの？」と会期中何度か問われることがありました。良寛と高知は、あまり縁がないように感じている方も多かったのでしょうか。

良寛は、一七七九年（二二歳）、生まれ育った新潟を離れ、国仙和尚のもと倉敷市玉島の円通寺で禅の修行を始めます。一七九〇年（三三歳）、修行の終了である印可の偈を受け、翌年、西国行脚に旅立ちます。この良寛の西国行脚の軌跡は殆ど残されていないのですが、唯一それらしい記録が残された地が高知であり、また、良寛と親交の深かった阿部定珍が四国巡礼の途上、急な病に倒れた地でもあります。



良寛展会場

さて、土佐での良寛の記録を残したのは、玉島出身で江戸に在住していた国学者にして歌人の近藤万丈でした。良寛と親しくしていた解良家第十代叔問の末子・栄重が残した『良寛禅師奇話』に「土佐ニテ江戸ノ人万丈ト云人、一宿ヲ共ニセシト、其時ノ事万丈ノ筆記ニアリ」と記されており、その近藤万丈「寝覚の友」では、若い頃の話として、土佐での旅の途上、高知城下三里のところまで雨にあい、近くにあって庵に泊めてもらうことにしたが、瘦せて青白い顔をした僧は最初に言葉を交わしただけで何を話しかけても笑っているだけである、庵には木仏が一体あり、「莊子」が二冊あるばかりで、僧なのに座禅も念仏もおこなわない、本に挟んであった草書の見事に揮毫を頼むと応じ「越州の産 了寛書す」と記した、その礼に紙と短冊を置いてその庵を辞去した、というものです。

解良栄重は一八〇年生まれですので、良寛より五二歳年下となります。『良寛禅師奇話』は一八四五年頃から良寛没後一五年後くらいにあたる期間に書かれたものと推測され、良寛から直接聞いた話を中心に五六話を収録、同時代人が残した良寛像を知る貴重

な資料です。

（『良寛禅師奇話』は本展監修の加藤信一先生が翻字され、釈文・解説を加えられ「良寛と禅師奇話」として新潟の考古堂書店から刊行されています。）

さて、文学の展覧会の場合、作品数が二百点、三百点というところが普通で、展示室は密度の濃い空間となるのですが、今回の展覧会の出品点数は、約五十点。展示室は良寛の仮名のようにゆつたりとした余白にあふれ、一点一点を余韻を持って鑑賞できる構成となりました。

お客様もゆつくりとご覧になられているように感じましたが、来場アンケートに回答くださった方の中には六時間過ぎたに回答くださった方の中には六時間過ぎたに回答くださった御婦人もいらっしゃいました。そして、アンケートや直接お話をうかがった感触では二度三



良寛講演会・加藤信一先生

度と足を運んでくださったお客様がいつも増して多かったですように思います。

新潟と高知は遠く離れ、気候風土も大きく違うことを今回作品を借用にあがったときに強く感じました。新潟の風景の美しさ、厳しさは、弓納持福夫氏「良寛歌詠」の写真で一部ご紹介することができましたが、良寛が育った気候風土を肌で感じることも良寛の人となりや芸術を知る大きなポイントになると思います。

## 閲覧室から



『たき おさむ詩集・花いばら』  
西森茂夫 著

新潟まで現在は高知から最短四時間弱の「距離」です。本展覧会が、新潟で良寛と巡り合う契機となれば、本展覧会の意味も更に深まると思います。

期間中には、関連の催し物を毎週末に行い、多くのご参加を得ました。

監修の加藤徳一先生が講師をお引き受けくださった記念講演会は、事前申し込みで定員百名を超え、当日席数を増やしましたが、講演途中入場のお客様はお断りするしかなく、申し訳ない思いが残りました。

講演の内容は、とても興味深いもので九十分という時間が瞬く間に過ぎていった感がありました。(本講演は当館の講演

記録集『流風余韻』にも収録を予定しています。)

定例となった朗読の会は、良寛の漢詩「半夜」の詩吟にはじまり、水上勉氏、松岡正剛氏の作品を前半に、後半は相馬御風「良寛さま」からいくつかの良寛のエピソードを取り上げ、結びに相馬御風の「月の兎」と良寛の長歌「月の兎」を朗読。この構成は学芸員のリクエストがもとになっているのですが、近現代の文学作品朗読が多い中、趣を異にした内容で朗読としては難しかったようです。しかし、いただいた感想からは良寛の人となりや伝わる内容として満足いただけただけで、リクエストした学芸員としては

植木枝盛、榎村浩等の地道な紹介、自由民権運動の研究「平和資料館・草の家」を設立、「憲法の森」の育成など、反戦平和の市民運動をリードしてきた筆者自ら「闘いの記録」と記す、掌に、胸に、ずしりとくる一冊。

少年期の一九五一年「全高知学童詩集」に収載された詩「北海道大学時代の詩」、愛の詩、新任として赴任した高校への思いをこめ作詞した校歌から、二〇〇三年の病中詠、「アメリカのイラク帰帰を憂う」、「妻、子、孫、草の家の友人たちに」、「我にまだ怒る力あり」まで、その内容は氏の生涯の思いを映す。

「自由は土佐の山間より」という／郷土のほこりをばくらはとりもどしたい／一人でも義人がおれば許すという／神の言葉を僕は信じていたい／そして報酬を求めぬ無垢の人々が次々とたちあがり大きくなるとなる日のことを「(無題)わが痛恨のうた」と歌った日の氏の心の叫びは今も息づいている。読む者は肅然たる思いで頁を繰るだろう。(佳)

平和資料館・草の家発行

## 県内同人誌紹介



歌誌『深層水』

アイデア倒れにならず密かにホッと胸をなでおろしたことでした。

新潟発で制作されたアニメ映画「良寛さん」は、良寛の生涯を70分という短時間でまとめた佳作で、小林幸子のナレーションに菅原文太の良寛、新潟県知事も声優として藩主を演じるというユニークなキャストイングで親子連れや若い方も楽しんでご覧になっていました。

最後になりましたが、今回の展覧会で、高知ならではの出品がありました。阿部定珍が四国巡礼の旅の記録を綴った「西国紀行」、「四国紀行」の二冊です。阿部家のご協力により特別に出品いただいたことは、展覧会により深みを

与え、良寛が生きた時代の新潟の文化レベルの高さを阿部定珍をとおして知る事ができる又とない機会となりました。しかし、この出品を快諾してくださった、ご当主の阿部修一郎氏が展覧会直前に病により逝去されました。展覧会への深いご理解に感謝申し上げますとともに、ご冥福を心からお祈り申し上げます。

阿部家をはじめとして今回の展覧会に貴重な作品を快くご出品くださった所蔵者の皆様、展覧会開催への多大なご協力とご助力を賜りました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

(川島郁子)

平成十四年三月五日創刊の短歌雑誌。創刊号に「深層水短歌会」は、短歌は生きる力の源であるとの精神のもとに、現代短歌の研究と創作をとおして、鋭く、深く日本の感性を探究しようとするもので、広くこれに賛同する人々を会員とし、会誌「深層水」を発行。次の諸点に重点を置く」とある。

- ①自由で、個性的な創作を奨励する。
- ②批評に重点を置き、深く推敲する。
- ③月例歌会で読みを重ね、率直な詠出法を研究する。
- ④県内外の情報に敏感に反応する。

近刊は24号。巻頭言「続自然を詠もう(堀見矩浩)」に引き続いて、会員の短歌一人10〜5首「前月号の十首選評(吉門やすし)」「私の好きな歌(才谷健・畑山高千賀)」と、「エッセー」続枕詞に生命あり(中村正生)「旅のうた・歌のたび」(中岡祥子・藤本由紀子)のほか、「一月例歌会記」深層水問答」等を掲載。現在、会員27名で奮闘中。

☆編集・発行人(代表)堀見矩浩  
☆発行所 高知市赤石町五七 堀見方

## 風を呑む男

—小砂丘忠義—

猪野 睦



小砂丘忠義碑

高知には「あだたぬ」男が多かった。その一人に綴方教育の父といわれた小砂丘忠義がいた。「あだつ」とは収まる、順応するという土佐方言であるが、小砂丘忠義はどいう見ても体制の枠をこえてあふれていく男だった。結局、大きすぎて「あだたぬ」追われるように東京へでた。

現在の大豊町津家に笹岡忠義として一八九七年に生まれた。吉野川に沿う大杉から本山への旧県道の大きくカーブする集落であるが、子供の頃遊んだというお堂が今も残っている。一家の都合で小学校も地元を離れて点々とした。高知師範をすんで故郷の杉小学校へ赴任、それから旭、布師田、行川、梅ノ木、岡豊、田井と追われ勤務が八年つづいた。

高知での青年教師時代、がり刷りの「北極」「地軸」をだし、自由教育の論陣を張っていくが、それが県当局と衝突した。のちになって「就職中の給料は僅かに喰ふだけで着物すら作り得なくて印刷や通信費に使ってしまった」、世のなかには「異状な馬鹿が必要」ともかいたほど打ちこんだ実践だった。

県当局からは「北極」を止めよ、仲間との交際を止めよ、髪を伸ばすな、中折帽を被れという干渉があったが、髪は切ったがアゴヒゲを生やす、中折帽は買ったが手に持ったまま、仲間とは酒を飲みつづけた。抵抗のなかで「地軸」を出し生活綴方と自由教育をつづけた。結局、大きすぎた小砂丘忠義は、田井小学校を最後に惜しまれて上京した。一九一五年、大正の終わりだった。

東京では高知の青年教師時代にはじめた生活綴方を全国に拡げた。全国向け「綴方生活」を八年間、全六十八冊を出すのがピンチもあった。田中貢太郎の名を借り「少年浜口雄幸」をかいて出版、刊行資金を作ったりもした。田中貢太郎のところへは池田邦夫らと出入りし、田中貢太郎のところへ高知から四斗樽で送られてくる瀧風をのん

だ。田中貢太郎と同じく酒徒でもあった。

「綴方生活」は全国に根を張り、青年教師の魂をゆさぶっていく雑誌だった。だが日中戦争へ向けて言論が窮屈になっていくなかで赤い雑誌という風評もで、読者の誌代滞納、購読中止もでてくる。生活にもひびいてくる。そんななかで肝硬変による白癩のような死がやってくる。一九三七年、四十一歳のときだった。

先日、小砂丘忠義の碑をあらためて尋ねた。碑のある大杉中学校は、最初に赴任した杉小学校から穴内川をへだてて見下ろせる対岸にあり、碑はその校庭にあった。

その下に「大芭蕉葉鳴りゆたかに風をのむ——九月二十七日絶吟」が彫りこまれていた。裏には「大杉村二生レ当村小学校ニ学ビ後ソノ母校ニ於テ最初ノ教鞭ヲ取ルソノ時既ニ教育実践ヲ通シテ生涯綴方ヘ大成ノ素地ヲ造ル」「白山ト独創ト二生キ生涯綴方ノ創始者タル名誉ヲ讀エル為同人相謀リ故人ノ命日ヲトシテ碑ヲ建ツ」とあった。一九五三年十月十一日、命日を期した全国同人による建立だった。

碑の大芭蕉の句は亡くなる数日前、女学校一年生の娘の夢に口述代筆させた十句の最後の句だった。十句のなかには「大芭蕉優然として風に誇り鳴る」「巨葉鳴らし風呑まん」とす大芭蕉「などもあった。時代の風声と病魔にたちむかっていた小砂丘忠義の句で、風にざわめく大芭蕉とともに聞こえる句である。

亡くなった翌年、「私の綴方生活」が田中貢太郎の序でモナスから出版された。随筆、小品、通信、綴方生活など生前の作品がまとめられた。編者は小砂丘夢だった。女学校二年の夢を編者にしていく綴方同人の心配りの刊行だった。

大豊町川口に「反骨精神と独自のヒューマニズムを貫いた教育者だった」と讃える記念館が建った。今閉館中であるのが惜しい。

## 資料受贈報告

(平成十五年十二月〜平成十八年二月)

敬称略

- ▼高知朗読奉仕者友の会：「二十年のあゆみ 高知朗読奉仕者友の会編刊」▼沢田明子・「絵と俳句「十」」
- 沢田明子 高知新聞企業」他▼高知ペンクラブ・「高知文芸年鑑16号 高知文芸年鑑編集委員会 高知ペンクラブ」他▼横田晴光・「椀と盃」上佐の食―川村源七 高知市民図書館」他▼公文徴・「怒涛の人々 第一部・第二部 公文徴」▼榎原忠彦・「寺田寅彦と連句 榎原忠彦 近代文芸社」▼西森茂夫・「たきおさむ詩集・花いばら 西森茂夫 平和資料館・草の家」▼俳誌「壺」発行所・「句集 雪桜 桜・雪の会 俳誌「壺」発行所」▼沢英彦・「詩集」時の雫 沢英彦 形象社」
- ▼渡辺智恵・「かぎりなく遠い道・旅と幻想 渡辺智恵著刊」▼ひだか俳壇・「句集」葛懸 ひだか俳壇 編刊」▼鳥居昭美・「鳥居昭美・旅のスケッチ集Ⅲ 鳥居昭美 土佐良寛会」▼河田小龍生誕地「墨雲洞」の碑を建立する会・「河田小龍生誕地「墨雲洞」の碑建立報告書 河田小龍生誕地「墨雲洞」の碑を建立する会編刊」▼市原麟一郎・「上佐の民話38号 市原麟一郎編 土佐民話の会」他▼河上迅彦・「黄昏のあとで 河上迅彦 碧天社」▼坂本正夫・「近代土佐庶民生活誌 坂本正夫 高知新聞企業」▼片岡千歳・「古本屋タンポポのあけくれ 片岡千歳 タンポポ書店」▼澤村啓子・「句集」花鈴 澤村芳翠 澤村啓子」
- ▼西田勝・「雑誌」青年文 少年文 青年文」は文芸雑誌、投書雑

◆◆◆ 文学館日誌 2003年12月～2004年2月 ◆◆◆



グリム童話絵本よみきかせ (12月)

12月

◆5日 文学館運営協議会16名。／高知附属中学校生徒10名、引率6名観覧。／高知市立養護学校高等部生徒9名、引率1名観覧。／ヒューマンビジネス専修学校生徒13名、引率1名観覧。◆6日 かみしばい研究会例会。◆7日 「えほんのじかん」グリム童話絵本のよみきかせ。午後3時～午後3時30分。よみきかせは、高知おはなしの会 森尾靖子さん。2階ロビーにて。参加者24名。◆13日 第6回文学カレッジ(3回目)「田中貢太郎の文学」講師：猪野 陸氏。受講者79名。◆14日 「えほんのじか

ん」グリム童話絵本のよみきかせ。午後3時～午後3時30分。よみきかせは、鳥越幼稚園 式地玲子さん。2階ロビーにて。参加者20名。／高知市民大学15名様観覧。／物部村教育委員会38名様(大人8名、子供30名)観覧。◆17日 上佐塾中学校(午前9時～10時30分)生徒90名、引率3名様観覧。(午前10時40分～午後12時)生徒87名、引率3名様観覧。◆20日 第45回朗読の会「赤西蠣太」志賀直哉作。『於大と信長』千草子作。朗読：戸松育子氏。午後2時～午後4時。文学館ホールにて。参加者46名。◆21日 「えほんのじかん」グリム童話絵本のよみきかせ。午後3時～午後3時30分。2階ロビーにて。参加者40名。／「永遠のグリム童話展」終了。期間中人館者(プレオープン及び関連イベント参加者含む)3、3、4、9名。◆26日 年末年始休館日。(12月26日～1月1日) ◆27日 年末年始休館日。(12月26日～1月1日) ◆28日 良寛展開幕。◆4日

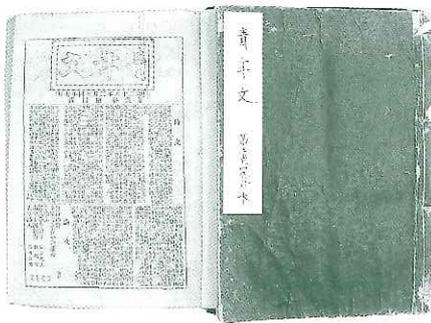
名菅教授。午後2時～午後3時30分。文学館ホールにて。参加者125名。◆17日 第46回朗読の会 第一部「良寛を歩く」水上勉作。第二部「良寛歌集」。午後2時～午後4時。文学館ホールにて。参加者58名。◆18日 アニメビデオ上映会「良寛さん」。(午前10時、11時30分、午後1時、2時30分)4回上映。参加者①17名。②10名。③9名。④15名。◆22日 明徳義塾高校2年生65名、引率5名様観覧。◆24日 かみしばい研究会参加者6名。◆25日 アニメビデオ上映会「良寛さん」。(午前10時、11時30分、午後1時、2時30分)4回上映。参加者①4名。②6名。③6名。④17名。◆31日 第6回文学カレッジ(4回目)「京極為兼の文学」講師：生田 勝彦氏。受講者86名

2月

◆1日 年末年始休館日。(12月26日～1月1日) ◆2日 良寛展開幕。◆4日 ギャラリートーク。午後2時30分より(2階展示室)4名。◆10日 「記念講演会」講師：加藤 億一氏(新潟大学) ◆7日 かみしばい研究会。参加者8名。◆11日 「文学・青春展」開展式。午前10時～。参加者27名。／記念講演会「文学・青春について」講師：中村 稔氏(詩人・日本近代文学館理事長)。午後1時30分～午後3時。文学館ホールにて。参加者52名。◆14日 第6回文学カレッジ(5回目)「詩人 島崎曙海の生涯」講師：清水峯雄氏。受講者85名。◆19日 みずほ総合研究所4名様ご来館。◆21日 第47回朗読の会「文学・青春展」に寄せて―午後2時～午後4時。文学館ホールにて。参加者28名。◆28日 ギャラリートーク。午後2時より(2階展示室)15名。◆29日 尾道てごう座演劇公演ビデオ上映会「花の命く放浪のひと林美美子」。午後1時30分～午後4時。文学館ホールにて。参加者20名。松本遊紅氏の一枚琴演奏あり。

誌。明治二十八年二月から三十年一月まで毎月刊行。六冊(号)ごとに巻を改め、四巻で全二十四冊。奥付では発行兼編集者が大橋又四郎となつていますが実際の編集責任者は田岡嶺雲と山県五十雄。発行所は山県三郎主宰の少年園となつています。定価は八銭で発行部数は二千部を前後したといわれています。「発行の辞」には、当時の文壇が「沈滞腐敗」に傾き活気が無く「寂寞荒涼、秋天の如く、冬日の如」き様であると嘆き、これに「痛切深酷なる鞭撻を與へ」とともに「隠れたる玉と花とを世に紹介」しこれを機に多くの若い人材が世に出ることを期待する旨が述べられています。ご寄贈いただいた資料は、第一巻～第三巻はそれぞれ次巻第一号の附録として、また第四巻は「文庫」第四巻第四号の附録として再編刊行されたものです。

このほか、全国の個人、関係機関の方々から数多くの資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。



〔雑誌〕青年文

# 高知県立文学館カレンダー

2004年  
4～6月

4月—April

5月—May

6月—June

## 第7回 文学カレッジ

- ◆ 4月24日(土) 「桂月の歌碑行脚、こぼれ話」  
講師：澤田輝夫(酒蔵「桂月館」館長)
- ◆ 5月22日(土) 「土佐の古典文学への誘い」  
—『土佐日記』から『土佐源氏』まで—  
講師：井出幸男(高知大学教授)
- ◆ 6月26日(土) 「瀾水と波静」  
—子規のもとに出入りした土佐の俳人—  
講師：橋田憲明(県立文学館館長)
- ◆ 7月31日(土) 「上林暁—川端康成との縁」  
講師：松本秀正(前県経営者協会専務理事)
- ◆ 8月28日(土) 「宮崎夢柳—埋もれた弁士文学者」  
講師：猪野 睦(高知文学学校運営委員長)

★受講者を募集しています。

<受講料>無料 全5講義13:30～15:00

<募集人数>70名(予定)

<申込方法>

申込用紙またはハガキに〒住所・氏名・TEL等をご記入の上、文学館までお申込下さい。

(郵送・持参・FAX可)

<受付開始>

受付開始4月3日(土)より定員に達するまで。定員を超えた場合、抽選する場合があります。4月17日(土)までにご通知いたします。

講座等

## 日本文学原作の映画上映会

※各日2回上映。解説あり。

「智恵子抄」1967年松竹 125分  
監督：中村登／原作：高村光太郎、佐藤春夫  
〔日 時〕4月25日(日)  
・第1回上映 10時00分～12時05分  
・解説 12時20分～13時00分  
「光と影を宿す『智恵子抄』」  
山川禎彦氏(高知文学学校運営委員)

・第2回上映 13時10分～15時15分

〔場 所〕高知県立文学館1階ホール

〔入場料〕500円

〔定 員〕各100名(当日先着順)

「美しさと哀しみと」  
1965年松竹 106分  
監督：篠田正浩  
原作：川端康成  
〔日 時〕6月20日(日)

主 催 小夏の映画会 (TEL:090-9453-0950) 高知県立文学館

催しもの

## ミニ企画展

### 岡田憲佳写真展 「金子みすゞ 思い花」

童謡詩人・金子みすゞが見つめた小さな草花を、  
写真家・岡田憲佳氏の写真で紹介しします。  
観覧料(常設展示含む)：350円、高校生以下無料

【岡田憲佳(おかだ・のりよし)】プロフィール  
ニッポン・リプロ代表。長岡外史顕彰会長。下松日韓親善協  
会会長。益田市観光協会・益田市雪舟顕彰会・益田市柿本人  
麻呂公顕彰会顧問。

【主な出版物】「隠岐の旅情」|「松江・萩・津和野・長門・益田ガ  
イドブック」|「柿本人麻呂」|「雪舟さんの歩いた道」|「キリシタ  
ン巡礼の譜」など。その他万葉関係の出版物多数。各地で万葉  
花写真展を開催。2001年、高知県立牧野植物園でも「万葉の花  
写真展」開催。



写真提供：金子みすゞ著作権保存会

金子みすゞ(1903-1930)

山口県出身。「若き童謡詩人の  
巨星」と称賛されながらも、  
26歳の若さで世を去り、長い  
間その全貌は幻とされてい  
た。没後半世紀を経て遺稿集  
が発見されると、多くの人々  
を魅了し、近年ますます評価  
が高まっている。

## ギャラリートーク

4月29日(木・祝) 13時30分から15時

- \* 内容・「植物写真とわたし」
- \* お話・岡田憲佳氏(写真家)
- \* 場所・高知県立文学館 企画展示室
- \* 要観覧券

企画展示室

【休館日】4月—5, 12, 19, 26日 5月—6, 10, 17, 24, 31日 6月—7, 14, 21, 28日

次回企画展紹介

マザー・グースの世界展(仮)

2004年7月3日(土)～9月5日(日)

次々回特別展

川端康成—文豪が愛した美の世界展(仮)

9月28日(火)～11月21日(日)

## 利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時30分まで)  
休館日 毎週月曜日(休日・祝日の場合はその翌日)  
年末年始(12月26日～1月1日)  
観覧料 一般350円  
特別企画展のあるときは、料金が変わります。(一般550円)  
20人以上の団体は2割引。高校生以下、高知県(市)長寿  
手帳所持者及び身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者  
保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳所持者と  
その介護者1名は無料です。

駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。

貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

## 交通のご案内



- 高知空港より空港バスではりまや橋下車徒歩20分
- JR高知駅下車徒歩20分
- 土佐電鉄電停高知城前下車北へ徒歩5分
- バス停公園通り下車北へ徒歩5分

高知県立  
文学館

高知市丸の内1丁目1-20  
電話 088-822-0231  
FAX 088-871-7857  
〒780-0850

NEW ホームページとEメールアドレスが変更になりました。E-mail: bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~bungaku